

第2回 八尾市人権教育・啓発プラン策定審議会
ワーキング部会A こども・学校 会議録【概要】

1. 開催日時

令和7年10月20日(月) 18:00~20:00

2. 開催場所

八尾市役所本館6階 大会議室

3. 出席者

※ 委員8名中7名が出席。本審議会の規則第6条第2項の規定に照らし、有効に会議が成立。

(委員) 浅井委員、石田委員、伊藤委員、伊原委員、小川委員、徐委員、松田委員

(傍聴者) 0人

(事務局) 人権ふれあい部人権政策課課長補佐 阪田
人権ふれあい部人権政策課係長 池田
人権ふれあい部人権政策課副主査 山崎
八尾市教育委員会人権教育課課長補佐 永井
株式会社HRCコンサルティング 東野・小西

4. 案件

- (1) ワークショップ
- (2) その他

5. 会議資料

- ・ 第3次八尾市人権教育・啓発プラン(案)の構成案
- ・ パワーポイント資料
- ・ 第1回ワーキング部会A. こども・学校 グループワークのまとめ
- ・ 第2回ワーキング部会A. こども・学校 ワークシート

6. 議事内容

【1班】

<グループ発表>

3つ選びました。

- ◆1 親の経験、こどもの経験を豊かにする
- ◆2 こどもの話(声／views)を聴く
(※言語だけではなく、態度・行動なども含めて)
- ◆3 こどもの権利を大人もこどもも知る・学ぶ・実行(実現)
この課題に取り組むためのアイデアはなかなか難しかった。

◆1 親の経験、こどもの経験を豊かにする

こどもがさまざまな価値観の大人に出会えるような場所を考える、つくる。そこで親も、多様なこどもの姿に触れて、自分の凝り固まった価値観だけではなく、大人とこどもが接する時間を増やすことにつながる。それは、将来、こどもが自己決定をしていくために必要です。

「どうする」が本当に難しかったのですが、『さまざまな行事をする』、これはこどもの権利にも関わってきますが、『親が自分自身を自己採点するチェックリストをつくる』など。

『飲食をともなう交流会』のような場所は少ない。飲みニケーションと言ったりもしますが、会議の後の打ち上げの方がリラックスして話ができるので、そういう場所をつくる。

◆2 こどもの話(声／views)を聴く

こどもの声を聴くのは、地域の人。私がCAP スペシャリストなので、CAP の話をしました。

◆1・2 共通

プレイパークという、自分の責任でこどもが自由に遊ぶ公園をいろんなNPO が運営していて、実際に日本にたくさんある。「こどもの遊びを大事にする」プレイワーカーが常駐している。公園にこどもを見守る人がいるのは、こどもの声を聴き、経験を豊かにするのにいいのではないかな。

「地域のおせっかいさんMAPをつくる」には、余裕があるので「余裕をつくる」ためにどうするか、ということを考えないといけない。

◆3 こどもの権利を大人も子どもも知る・学ぶ・実行(実現)

非常に難しかった。『子どもの権利』や『子どもの権利条約』があること、「あなたには権利がある」とどうこどもに伝えていくか。そう扱われるのが1番ですが、「大人がこどもの絵本を読みに行く」、『子どもの権利マスター制度』をつくって、養成講座で勉強をするという研修の組み立てで、そこに来てもらうというのが本当に難しい。八尾市のさまざまなお店にスポンサーになってもらって、『権利マスター』は美味しいお店でランチやディナーが食べられます、というような交流が生まれる取り組みはいかがでしょうか。

【2班】

<グループ発表>

2班の取り組む課題は、学校などで取り組む「◆人権学習の充実」と、その人権学習を行うための「◆学校と地域の連携」になりました。

◆人権学習の充実

学校や教員ができることは、「何のために／何を」と言われたら「人権感覚を育むため」だと思います。学校でできることは「人権学習をどう進めていくか」。人材も必要なので確保しなくてはならない。どういうふうに入権感覚を正しく身につけていくのか。

「ネットワークの構築」と書いたのは、学校毎に入権学習はしていますが、例えば「誰を呼んだ」、「どんな学習をしたのか」、「こんな内容だった」という情報交換がなかなか上手くできていないので、ネットワークの構築は学校でできることだと思います。

市や教育委員会にお願いしたいのは、「予算」の話になりました。予算がないと、こどもたちに出会わせ

たい人にも出会えないので予算が確保できたらいい、という話になりました。

◆学校と地域の連携

地域との連携は大事だけど、大人の凝り固まった考え方をどう変えていくのか。それは難しいから、今から大人になることもたちをどう変えていくか。

研修の話も出たが、以前にも話したように「正しく学べる場」をどう設定するか。ここでいっぱい出てきたのが、外国にルーツのある人や障がいのある人は八尾市にも多くいるので、その人たちと交流することで、その人たちのことや国の文化を正しく知ること、比べるのではなく、違いを豊かさに捉えてもらいたい、という話になりました。「出会いの場をつくる」、「料理教室を開催する」という意見も似ている。

また、非常にお金のかかることですが、研修に出て行くとなると時間や場所の問題もあるので、博物館をつくって「そこに行ったら学べる」というのはどうか。地域のフィールドワークで学んでもいいとの話にもなりました。

以上